

Digifly Archimede Plus アルキメデスプラス取扱説明書

(株)スポーツオーパカイト 03-3291-0802 0299-44-3642 itajiki@opa.co.jp

3年間保証：以下の条件にて、販売店への出荷から3年間、無料にて修理いたします。
修理に伴う御不便と送料については、御負担願います。

1. パラグライダーおよびハンググライダー活動本来の使用目的が守られていること。
2. この取扱説明書に沿った正しい使用方法が守られていること。
3. お買い上げ後、すみやかに添付のカスタマー登録ハガキに所定事項をすべて記入の上、(株)スポーツオーパカイトまで返送していただいていること。
4. 当社認定以外の方法で修理あるいは改造されていないこと。
5. 高温・水濡れ・衝撃・放置などの異常事項による損傷ではないこと。

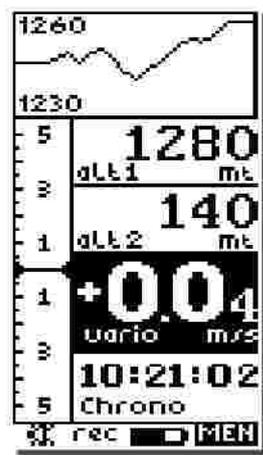
使用電池についての注意：アルキメデスプラスは単3型の1.5V乾電池1本を使用します。電池寿命は約200時間です。充電式乾電池の使用も可能ですが、通常のは2ヶ月ほどで完全放電して役に立たなくなってしまうので、ご注意ください。

表示画面の種類 (表示画面の選択は、操作盤面右下のを押してください。)



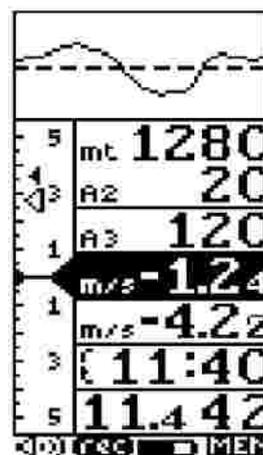
第1画面

アルチ(高度計)A 1
アルチ(高度計)A 2/A 3
平均値バリオ
多機能表示窓* 1
時計/ストップウォッチ



第2画面

高度/上昇率変化グラフ
アルチ(高度計)A 1
アルチ(高度計)A 2/A 3
平均値バリオ
多機能表示窓* 2



第3画面

高度/上昇率変化グラフ
アルチ(高度計)A 1
アルチ(高度計)A 2
アルチ(高度計)A 3
平均値バリオ
ネットバリオ
時計/ストップウォッチ
多機能表示窓* 1

多機能表示窓* 1 = 対気滑空比 & 対気速度/気圧/気温

多機能表示窓* 2 = 対気滑空比 & 対気速度/気圧/気温/時計/ストップウォッチ

(多機能表示窓の選択は操作盤面中央右の「」で行います。)

1.1 スイッチのON/OFF

電源の入/切は、操作盤面左上にある「？」キーを4秒以上押し続けてください。
運搬保管中の誤作動を防ぐため、一度電源を切ると5秒間は起動できなくなります。
起動直後には、バリオモデル・入力されたパイロット名・製造番号・ソフトウェアバージョン・日付時刻・バッテリー電圧が表示されます。

1.2 キーの押し方

キーの押し方により、2つの機能を使い分けることができます。1秒以内の押し方が通常の押し方で、2秒以上の押し方は、特に「長押し」と表現します。

2.1 メニューおよび各種設定方法

操作盤面右上の「M」キー（隣接する液晶画面右下に「men」：メニュー表示）を押すと、メインメニュー画面になります。液晶画面の上部に「MENU」と表示され、画面中央にサブメニューのリストが以下のとおり表示されます。メインメニュー画面から通常画面に復帰するには、操作盤面左上の「？」キー（隣接する画面左下「ESC」：エスケープ表示）を押してください。

サブメニューは以下の5つです。

「ALTIMETER」 （高度計の設定 - セクション3.1参照）

「LOGBOOK」 （フライトデータ - セクション4参照）

「VLTOOLS」 （PC通信オプション - セクション5参照）

「MAINSETUP」(バリオなどの表示項目・表示単位の設定 - セクション3.7参照)

「ADVANCEDSETUP」(スピードセンサー使用/ポララーカーブ入力前提の上級機能設定)

サブメニュー画面の選択には「」か「」キーを押し、希望するサブメニューにカーソルを置いたら「M」キー（隣接する液晶画面右下「ENT」：エンター表示）を押して確定してください。逆にサブメニュー画面からメニュー画面に戻ったり、さらにメニュー画面から通常画面に戻るときは左の「？」（隣接する液晶画面左下「ESC」：エスケープ表示）キーを押してください。

それぞれのサブメニューの表示項目の設定値を調整・変更するには、まずサブメニューを確定「M」し、「」か「」キーを操作して希望する表示項目を選び、「M」キーで（隣接する液晶画面右下「EDIT」：エディット表示）確定します。すると設定値の部分のみにカーソルが縮まるので、「」か「」キーを操作して希望する設定値に調整し、「M」キー（隣接する液晶画面右下「SAV」：セーブ表示）で確定します。設定値の調整を破棄して元のままで良いときは、「M」キー(セーブ)を押さずにいきなり「？」(エスケープ)を押してください。

2.2 液晶画面コントラストの調整

サブメニュー「MAINSETUP」の1番目の「CTRS」で調整できます。

3. 高度計

3.1 3 デジタルアルチメーター A1/A2/A3

A 1/A 2/A 3 と 3 つの気圧高度計を使い分けることができます。それぞれの表示値の調整は、サブメニュー「ALTIMETER」から A 1/A 2/A 3 を選択して行います。(「2.1 メニューおよび各種設定方法」を参照)

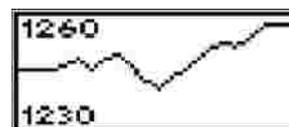
A 1 は 3 画面とも一番上に表示されていて、フライトデータレコーダーに記録される高度です。A 3 には一定の上昇率が一定時間続くとサーマルの拾い始めとして検知し、自動的にゼロ設定し、その後のサーマルでの獲得高度を知る機能が含まれます。この設定は「ADVANCEDSETUP」の 1 番目「THEV」と 2 番目「THET」で調整できます。なお、この「THEV」と「THET」の調整は、サーマルスニッファー(4.6 サーマルスニッファー参照)の設定にもなっています。

高度表示を既知の離陸地点高度に自動調整する QNH 機能はありませんが、標準大気圧(1013.2mb)海拔相当(=QNE 高度計規正值)に調整する機能があります。A 1/A 2/A 3 の調整を呼び出した状態で、操作盤面中央の「」を長押しして下さい。液晶画面下の左右で「NO」「YES」の表示が出るので、「?」「M」キーで「YES」選択して下さい。

第 1 画面と第 2 画面では、「」キー(「ZERO」「ALTI2-3」も印字してあるボタン)によって、「A 2/A 3」枠で表示する高度を、「altim2」(A 2)か「altim3」(A 3)に選択できます。また、「」キーを長押しすると「A 2/A 3」枠で表示中の高度をゼロに設定することが出来ます。

3.2 - a 高度変化グラフ

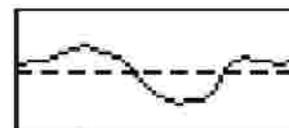
これは縦軸に高度、横軸に時間をとって、上昇・下降の高度変化が一目で分かります。高度及び時間のスケールは



サブメニュー「MAINSETUP」の「BARY」(Y 軸: MAINSETUP 画面の右上に番号「14」を表示)、「BARX」(X 軸: MAINSETUP 画面の右上に番号「13」を表示)で設定できます。

3.2 - b 上昇率変化グラフ

これは縦軸に上昇率、横軸に時間をとって、直前の上昇率の変化が一目で分かり、サーマル位置の特定に役立ちます。



時間軸のスケールは「BARX」(X 軸: MAINSETUP 画面の右上に番号「13」を表示)で、上昇率のスケールは 7 番の「FS_V」で設定します。

4. バリオメーター（昇降計）

4.1 アナログバリオ

液晶画面左のバー表示で、昇降速度（上昇率・沈下率）が表示されます。サブメニュー「MAINSETUP」7番の「FS_V」で、表示バーのスケールを「LOW」（1 m/s）・「MED」（6 m/s）・「HIG」（12 m/s）の3段階から設定することができます。

4.2 平均値バリオ

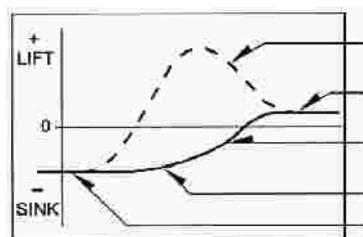
設定された時間（0～60秒）内での上昇率の平均値が表示され、サーマリングに役立ちます。「MAINSETUP」6番の「INTE」（インテグレーター：MAINSETUP画面の右上に番号「6」を表示）で設定できます。

4.3 音バリオ

- ・上昇音を音の変化で表します。通常画面表示時に盤面左下の音量キーを押すと、音量を大小に切り替えることができます。長押しすると無音になります。以上に伴い、画面左下隅のスピーカーのアイコンも切り替わります。
- ・上昇音の鳴り出しは、「MAINSETUP」2番の「V.UP」で設定できます。
- ・下降音の鳴り出しは、「MAINSETUP」3番の「V.DN」で設定できます。
- ・バリオ音のトーンを、「MAINSETUP」4番の「TONE」で設定できます。
- ・バリオ音の反応速度を、「MAINSETUP」5番の「RVAR」で設定できます。
- ・「MAINSETUP」8番の「SIMV」（バリオシミュレーター）を「ON」にして通常画面に戻すと「」キーを操作して0.1m/sごとのバリオ音のトーンを確認することができます。バリオシミュレーター作動時は、実際の上昇率は反映されませんから、通常使用時は必ず「SIMV」は「OFF」にしてください。

4.4 トータルエネルギー補償

これは、バリオを飛行速度（対気速度）の変化と連動させる機能です。飛行中のハンググライダー・パラグライダーは高速から減速すると一時的に上昇してバリオが無駄鳴きする場合があります。



- (3) 一時的な上昇による偽の高い上昇率
上昇風内で安定してからの実際の上昇率
トータルエネルギー補償で表示された上昇率
上昇風に入って減速開始
高速グライド中

適切に設定されたトータルエネルギー補償機能があれば、位置エネルギー（高度）と運動エネルギー（速度）をあわせた総合エネルギー（トータルエネルギー）が増加しているか減少しているかを判定することで、サーマルの強さや場所がわかりやすくなります。

機体によってトータルエネルギーの補償割合（飛行速度の変化がどれくらい上昇につながるか）は異なるので、サブメニュー「MAINSETUP」10番の「TEC」で、%で表示される補償割合

を設定してください。適切な補償割合は、無風時に速度変化でバリオが鳴らないか確認するなど、パイロットの飛行経験に基づいて決めてください。高性能機ほど高い値になります。0%は補償が無いことを意味します。

注意：このトータルエネルギー補償機能や下記のネットバリオ、サーマルスニッファー、後述のマクレディー機能は、別売のスピードセンサーを本体の右側の穴へ接続して対気速度が測定できる状態で無いと、作動しません。また、ポラーカーブの選択も必要です。(8 . 1 ポラーカーブの選択・設計 参照)

4 . 5 ネットバリオ

第3画面のネットバリオ欄で表示されるネット上昇率とは、機体の周囲の空気自体の正味の上昇沈下率です。これは、入力された機体のポラーカーブ(滑空性能データ)と測定された滑空速度(対気速度)によって機体自体の沈下率を推定し、測定された沈下率から引くことで計算表示されるものです。入力されたポラーカーブと対気速度の測定は正確である必要があります。沈下率の高い高速グライド中は、弱いリフトに入っているにもかかわらず通常の上昇率は沈下のままですが、ネットバリオは上昇を示してくれます。通常バリオ欄(平均値バリオ)は、黒い背景に白文字で見やすくなっていますが、第3画面にあるネットバリオ欄は通常バリオ欄と見分けられやすいように、白背景に黒文字で表示されます。

4 . 6 サーマルスニッファー

ネットバリオ欄は第3画面だけにしなく、また、グライド中にネットバリオ欄を見るのも手間ですが、アルキメデスプラスには便利なサーマルスニッファー機能があり、上記のような状態になると、音が鳴ると同時に液晶画面上に「THERMAL」のポップアップメッセージが出て、リフトに入っていることを教えてくれます。サーマルスニッファー機能起動の設定は、ネットバリオで検知するリフトの上昇率とその持続時間を「ADVANCEDSETUP」の1番目「THEV」と2番目「THET」で行います。

5 . 対気速度・失速警報・表示値設定

対気速度を測定するためには、別売のスピードセンサーを接続してください。スピードセンサーの接続ジャックは、バリオ本体下側の右側の受け口です。

「 」キー(「SPD」「P.」「T」も印字)を押していくと、液晶画面右下の多機能表示枠に対気速度の表示を選択することができます。このとき多機能表示窓*1では、「km/h」(時速キロメートル)か「mPh」(時速マイル)の測定単位も表示されます。また、対気滑空比も合わせてその左側に表示されます。(5 . 3 対気滑空比参照) 測定された対気速度が5 km/h以下になると速度表示はされません。



10.2 42
effist kmh

多機能表示窓*1



11.4 21

多機能表示窓*2

5.1 失速警報

失速警報音の鳴り出しは、サブメニュー「MAINSETUP」9番の「STAL」設定できます。この機能は、スピードセンサーで検知する対気速度が設定値以下に低くなってきたときに音と画面で警報を発するものであり、実際の失速現象とは必ずしも連動していないことに注意し、あくまでも参考としてください。また、失速警報音はバリオ音に優先するので、低速ソアリング中はバリオ音が機能しなくなることに留意してください。ゼロ設定で失速警報を停止できます。

5.2 速度表示校正

スピードセンサーによる検知には誤差が生じますので、サブメニュー「MAINSETUP」11番目の「KIAS」(計器指示速度キャリブレーション)で補正してください。補正係数は%で表示されます。「100」%は修正なし。「110」%は表示値を大きくし、「90」%は表示値を小さくします。

警告! 対気速度の表示修正を正しく行わないと、飛行速度の判定誤差が大きくなり、スピードトゥーフライやネットバリオの作動に影響します。

5.3 対気滑空比

多機能表示枠で対気速度の表示を選択すると、同じ枠内左側に対気滑空比もあわせて表示されます。GPS 連動機能のないアルキメデスプラスでは、対地速度が測定できないため、あくまでも気塊の上昇下降を反映した対気滑空比であることに注意してください。この対気滑空比は、過去1~30秒間(「ADVANCEDSETUP」の3番目「EFF」で選定。初期値は3秒間)の平均値を表示します。

6.1 気圧計

「」キー(「SPD」「P」「T」も印字)を押していくと、液晶画面右下の多機能表示枠に、気圧の表示を選択することができます。このとき「Press」(圧力)の表示と気圧の測定単位「mB」(ミリバール=ヘクトパスカル)が表示されます。表示値はサブメニュー「MAINSETUP」12番の「KBAR」(気圧キャリブレーション)で補正できます。

警告! 気圧計の調整を誤ると、気圧表示と高度表示の表示誤差が大きくなります。

6.2 温度計

「」キー(「SPD」「P」「T」も印字)を押していくと、液晶画面右下の多機能表示枠に、気温の表示を選択することができます。このとき「Thermo」(温度)の表示と、選択されている測定単位(「°C」摂氏か「°F」華氏か)が表示されます。

測定単位の選択はサブメニュー「MAINSETUP」24番の「U_TE」で行なってください。また、気温表示値はサブメニュー「MAINSETUP」29番の「KTMP」(気温キャリブレーション)で補正できます。

6.3 時計・ストップウォッチ

液晶画面右下の多機能表示枠(第1画面では下から2段目)に、時刻あるいはストップウォッチ

チ計時時間を、「」キー(「TIME」も印字)あるいは「」(「CHRONO」「ZERO」も印字)を押すことで、選択することができます。このとき時刻であれば「Time」、ストップウォッチであれば「Chrono」(クロノメーター)の表示が出ます。

ストップウォッチ表示は、「」(「CHRONO」「ZERO」も印字)の長押しでゼロ設定することができます。

年月日・時刻は、サブメニュー「MAINSETUP」15～19番目の15「HOUR」(時)、16「MIN」(分)、17「DAY」(日)、18「MONT」(月)、19「YEAR」(年)で設定できます。

6.4 電圧計

フライヤー2は1.5V単3電池1本を使用し、おおよそ200時間、作動します。液晶画面最下段中央には電池の電圧残量がアイコンで表示されます。1.2V充電電池も使用できますが、電池残量アイコンは、1.5Vアルカリ電池新品使用時に100%表示となるようになっています。電池残量が作動20時間分以下になるとアイコンが点滅して残量警告表示が出ます。電池寿命は、極端な低温や高湿度などの条件下での使用では、短くなることに注意してください。

6.5 パイロットネーム・機体情報

アルキメデスプラスは電源を入れると、ファームウェアバージョン情報とともに、入力してあるパイロット名を表示することができます。パイロット名は、サブメニュー「MAINSETUP」20番の「PILO」(パイロット名)で入力できます。また、ログブック機能ヘグライダーの名称や型式、シリアル番号などの情報2件を、「MAINSETUP」24番「GTYP」と25番「GID」で入力することが出来ます。

6.6 言語

液晶画面に表示される言語を、英語以外のヨーロッパ言語に変更することができます。サブメニュー「MAINSETUP」30番の「LANG」(ランゲージ)で入力できます。

6.7 表示単位

表示単位の変更はサブメニュー「MAINSETUP」26番「U_AL」で高度表示単位(メートル・フィート)、27番「U_SP」で速度表示単位(km/h・mph)、28番「U_TE」で温度表示単位(「C」セ氏・「F」華氏)が選択できます。

7. フライトレコーダー

アルキメデスプラス Ver.64.3 では、最大250本のフライトをログブック機能に記録することができます。また、付属するプレイバック機能であらかじめ設定された記録間隔ごとの各数値を読み取ることができます。メモリー容量を超える場合は古いフライト記録から消去され、オーバーライトされていきます。デジフライ社の飛行計器がフライトを記録しているときは、液晶画面下に「rec」のアイコンが表示されます。FAI（国際航空連盟）の競技・記録規則に対応して、フライトレコーダー作動中はサブメニュー「MAINSETUP」へのアクセスはできません。フライトレコーダーは、電源を切るまで作動します。

7.1 フライトレコーダー起動モード

サブメニュー「MAINSETUP」21番「RECM」で、フライトレコーダーの起動モードを「AUT」（自動起動モード）、「ALW」（通電5秒後に起動）、「OFF」（記録せず）に設定できます。自動起動モードは、サブメニュー「MAINSETUP」22番「R_DS」で、4秒間に対する高度変化（1～30m）で設定しますが、正確には4秒間持続した上昇率であって、例えば2mの設定の場合、0.5m/s以上の変化が4秒間続かないと2mとは判定されません。

7.2 ログブック機能

最大250本まで、以下の内容のフライトデータを記録できます。

テイクオフの日時・飛行時間・積算獲得高度

A1表示高度・上昇率・対気速度の最大値と最小値

サブメニュー「LOGBOOK」を選択すると、テイクオフ日時順にフライト記録が並ぶので、見たい記録を選択して下さい。



TAKEOFF	01/05
29/01/08	17:16
DURATION	
00:23	hh:mm
ALTIM. GAIN	
00000743	mt
ALTIMETER	
Max: 2298	mt
Min: 297	mt
VARIO	
Max: 04.8	m/s
Min: -04.8	m/s
AIR SPEED	
Max: 0	kmh
Min: 0	kmh
ESC	MOX

記録されているフライトデータを消去する場合は、全てのフライト

データの消去しかできません。サブメニューの「LOGBOOK」を呼び出した状態で、操作盤面中央の「」を長押しして下さい。液晶画面下の左右で「NO」「YES」の表示が出るので、「？」「M」キーで選択して下さい。全てのフライトデータを消去するのであれば、「M」（YES）です。（操作方法は「2.1 メニューおよび各種設定方法」を参照して下さい。）

7.3 プレイバック機能

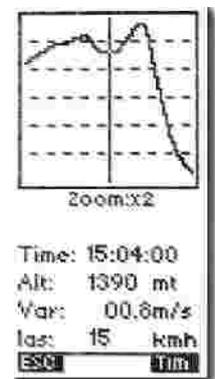
ログブック機能で選択した個々のフライトについて、あらかじめ設定

された記録間隔（「MAINSETUP」23番「RECR」）ごとの各数値

（A1表示高度・上昇率・対気速度）を読み取ることができます。

ログブック機能で選択したフライトデータが表示されている状態で、

操作盤面右上の「M」キー（隣接する液晶画面右下に「MOV」：移動表示）を押すと、このプレイバック画面になります。「」「」キーで時間軸を動かすと、そのときの時刻あるいはストップウオッチ時間と各数値が表示されます。「」「」キーで、グラフ画面の拡大・縮小ができます。「M」メニューキーで、時刻かストップウオッチ時間かの切り替えができます。



8. スピードトゥーフライ機能

スピードトゥーフライとは、著名なセールプレーンパイロットのポール・マクレディーが考案した、最速でサーマル間を巡航する最適飛行速度理論です。

サーマル・向かい風・下降風の強さに応じて、より高速だが速過ぎもしない最適の高速滑空速度値を計算しますが、実際には測定誤差や操縦ロスを考慮して、その使用法に慣れる必要があります。

また、アルキメデスプラスでは、GPS との連動が無いため、風（向かい風・追い風成分の風速）が計算されませんので、アルキメデスプラスのマクレディー指示については、スピードトゥーフライの理論と実際を理解したうえで、パイロットの判断で補う必要があります。

8.1 ポーラーカーブの選択・設計

アルキメデスプラスにはあらかじめ3種類のポーラーカーブ（「P-1」「P-2」「P-3」）が入力されており、サブメニュー「ADVANCEDSETUP」の5番「POLA」（ポーラーカーブ使用）で「P-1」「P-2」「P-3」「OFF」の中から選択できます。「P-1」は中級パラグライダー、「P-2」は中級ハンググライダー、「P-3」は高性能ハンググライダーです。「OFF」を選択するとスピードトゥーフライ機能は作動せず、関連する表示枠が空白となり、スッキリと見やすいベシックなバリオとして使用できます。

ポーラーカーブの設計

スピードトゥーフライやネット上昇率の計算には、正確なポーラーカーブ（滑空性能データ）を使用することが重要です。デジフライ社のウェブサイトから無料でダウンロードできるVLtools ソフトウェアの Configuration リストの中の3種類のいずれかのポーラーカーブ設定欄を使うと新たにポーラーカーブを設計することができます。ポーラーカーブ設定欄の右端のをクリックするとポーラーカーブ設計ページが出ます。

デジフライ社では、ポーラーカーブの設計要素として、

「A：最小沈下速度における水平飛行速度（km/h）と沈下率（m/s）」

「B：最良滑空速度付近における水平飛行速度と沈下率」

「C：最大滑空速度付近における水平飛行速度と沈下率」の3つを設けています。

この3つを入力して「Calculate」をクリックすると、設計されたポーラーカーブを形成するための3つの数値

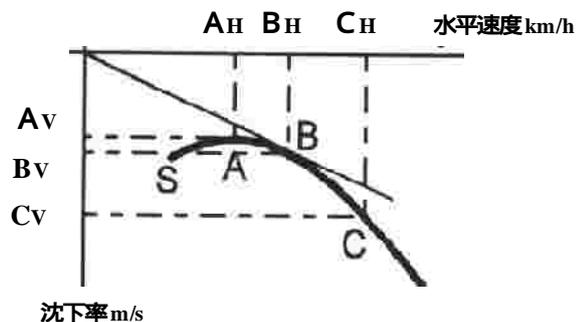
「Value」（これも-A、-B、-C と表示されますが、設計要素の3つの速度/沈下率のA・B・Cには対応していません。）が計算されます。この数値を

「ADVANCEDSETUP」の6～14番

「P1-A」～「P3-C」のうちの例えば

「P1-A」「P1-B」「P1-C」へ入力すると、「P-1」ポーラーカーブが新設計のものになります。

以下に2010年ごろのパラグライダー・ハンググライダーの初・中・高性能機で計算した表示



「S」（STALL=失速）は計算されないことに注意

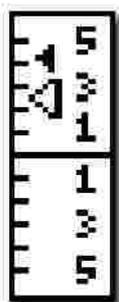
数値の例を掲げます。(先述のとおり、同じA・B・Cの行でも、表示数値と設計要素の3つの速度/沈下率とは、対応していません。)

水平飛行速度 (km/h) / 沈下率 (m/s)

		表示数値					
		初級機		中級機		高性能機	
パラグライダー							
A	27/1.2	0855	28/1.0	0160	29/0.9	0119	
B	36/1.35	1420	37/1.15	0228	38/1.1	0140	
C	44/2.3	0703	48/1.6	0180	52/1.7	0126	
ハングライダー		初級機		中級機		高性能機	
A	32/1.0	0472	33/0.9	0200	34/0.8	0095	
B	37/1.05	0864	44/1.0	0395	48/1.0	0164	
C	54/2.5	0495	60/1.8	0283	72/2.0	0150	

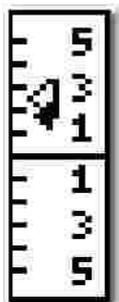
8.2 マクレディー表示

第3画面のアナログバリオ(液晶画面左のバー表示)には、マクレディー表示機能があります。まず本来のマクレディー値(最後に上昇が続いたときの平均上昇率)が白抜きの大きめの三角で示されます。この平均上昇率は、あらかじめサブメニュー「ADVANCEDSETUP」の15番「MCRA」で設定された検知時間(0.2~30分。初期値は10分)をもとに計算されます。次に小さめの黒三角が等価マクレディー値を示し、現在の飛行速度と実際の沈下率に対して、次のサーマルでどれだけの平均上昇率が得られればその飛行速度が最適になっているか、を示しており、飛行速度(および実際の沈下率)の変化に応じて変動します。等価マクレディー値の計算も過去何秒間かの飛行速度と沈下率の平均値をもとに行われ、サブメニュー「ADVANCEDSETUP」の16番「MCRE」で検知時間(0.1~3秒。初期値は0.4秒)を設定します。



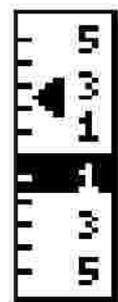
「速過ぎる例」

2つの三角が離れすぎていて、
もっとゆっくり飛ぶべき



「少し遅い例」

2つの三角が近づき、
このままでも良い



「理想的」

2つの三角が重
なっている

この等価マクレディー値の黒三角がマクレディー値の白三角に重なるように飛行速度を調整することで、サーマルを乗り継ぐ飛行レースで最短タイムが得られる最適飛行速度(=スピードトゥーフライ)で飛行することができます。

9. PC リンク

別売の PC ケーブルを使用すれば、デジフライ社のウェブサイトから各種の無料ソフトウェアをダウンロードしたり、PC へ飛行記録をアップロードしたりできます。

<http://www.digifly.com/archimede-plus/archimede-plus-downloads.htm>

8.1 最新ソフトウェアへの更新

アルキメデスプラスのソフトウェアを最新のものに更新するには、

アルキメデスプラスの電池電圧が十分あることを確認した上で、電源を切った状態で本体下左側の「GPS」プラグ穴へデジフライ PC ケーブルを接続します。

「M」 menu キーを押したまま「？」 on-off キーも押し続けると、長いビープ音が鳴りません。液晶画面は点灯しません。

まず「？」 on-off キーを放し、次に「M」 menu キーを放します。

PC 上でデジフライ社ダウンロードページのソフトウェアを呼び出し、「Upgrade_xx_x_Archimede_plus.exe」を起動してください。

PC 画面上の **START** ボタンをクリックします。

まず本体内のソフトウェアが消去され、

新しいソフトウェアがダウンロードされます。

この作動に数分間かかります。完了すると PC から長いビープ音が流れます。

「？」 on-off キーを押してから PC ケーブルを外します。



現行ソフトウェアは、Archimede Plus Firmware Windows XP/VISTA compatible Ver.64.3 です。

6. アルキメデスプラス諸元

グラフィックアルチメーター / 3アルチメーター (- 9 9 9 9 m から + 1 9 9 9 9 m まで) / 気圧連動アルチメーター表示調節 / バリオ感度調整 / バリオ音鳴り出し・音量・音調 / バリオグラフ表示 + - 1 2 m/s / バリオ数値表示 + - 2 5 m/s / バリオアベレージャー 0 ~ 6 0 秒 / トータルエナジーコンペンセーション (別売エアスピードセンサー使用) / エアスピード表示最大 1 5 0 k m/h (別売エアスピードセンサー使用) / 調整可能失速警報 (別売エアスピードセンサー使用) / 調整可能気圧表示 (3 0 0 ~ 1 2 0 0 m b) / 温度表示 3 0 ~ + 7 0 / 常時電池電圧モニター / 日付・時刻・ストップウォッチ / 最大 5 0 本のフライトデータ / 自動スタート記録機能 / 測定単位変更可能 / 液晶表示画面 1 2 8 x 6 4 ピクセル / 画面明度調整可能 / P C 接続速度最大 1 1 5 k b p s / ダウンロードによるソフトウェアアップデート (別売 P C ケーブル使用) / 使用電池は単 3 乾電池あるいは単 3 充電電池 1 本のみ (1.2 ~ 1.5) / 電池寿命 200 時間 / 寸法 144mm x 72mm x 25mm / 重量 (電池含む) 1 6 0 g